

【地区福祉委員会活動】vol.2

# 「場所」がつなく地域の架け橋

たいしちょう やまだ はた  
太子町 山田・畑地区福祉委員会

地域活動にとって「活動場所」は、参加のしやすさと安心感を左右する大切な土台です。しかし、近年、公民館の移転や閉鎖、アクセス面の負担、バリアフリー未整備などにより、従来の拠点だけでは活動しづらい地域があります。今回は、「活動場所」に注目し、お寺の本堂を利用した取り組みを紹介します。



はたいしちょう やまだ はた  
左から秦井祥雅さん、吉村輝彦さん、裕口絹代さん

## お寺が「居場所」に「正泉寺」

太子町の山田・畑地区福祉委員会では、自治会ごとに「かかし」の会（いきいきサロン）を行っています。そのうち、大道地区では、「大道かかし」の会としてお寺の本堂で活動しています。きっかけは、アクセスやバリアフリーの課題でした。もともとは公民館を利用していましたが、参加者の中には自宅からの距離が遠かったり、傾斜のきつい階段の上り下りが負担になったりしている方もいました。さらに新型コロナウイルスの影響で活動場所の利用にも制限がかかる中、新たな場所として考えられたのが「正泉寺」です。

正泉寺は、だれでも自由に集える場として地域に開放されており、住民にとって身近で安心して集まれる居場所として活用されています。

## かかしの会が紡ぐつながり

「大道かかしの会」では、住民同士の交流を目的に、参加者が気軽に楽しめるプログラムを実施しています。

活動場所は従来の公民館利用に留まらず、町内にある飲食店や古民家を活用するなど、参加者が集まりやすくなるように工夫しています。正泉寺での活動もその一環です。令和5年度から正泉寺の協力を得て、本堂でサロン活動を行っています。昨年度はストレッチ体験を実施。簡単な体操や、お茶と和菓子を楽しむひとときを提供しました。

運営を担う山田・畑地区福祉委員会の裕口絹代さんは「年に数回でも『行ってみよう』と思える場所にしたい。どんな方でも無理なく参加できる内容を心がけています」と話します。

## 地域のなじみ深い場所へ

正泉寺と福祉委員会の活動をつないでるのは大道地区の自治会会長吉村輝彦さんでした。住職の秦井祥雅さんから「より地域に開かれたお寺にしたい」という声を聞き、サロン活動での利用を提案しました。

秦井さんは、「お寺は生活や文化に根づいた場所であり、昔から地域の人々が集まる場所として機能していました。一斉に多くの人が集まれるよ

うに大きく設計されています。サロンなどの地域活動を通して、地域の皆さんが気軽に活用できる場所にしていきたい」と思いを語ります。

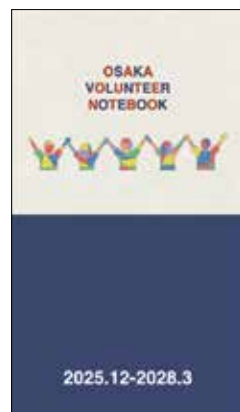
また、太子町社協の吉高賢司さんは、「町内すべての地区が、このように活動できている訳ではない。その地域の課題やニーズにあった伴走支援をしていきたい」と話します。



地域とつながるひととき 正泉寺でストレッチ体験

## 【OSAKAボランティア手帳】

～ 11月販売！～



2年間使用できる寄付つき手帳です。1冊400円(税込)の内10円が赤い羽根共同募金に寄付されます。

あなたも『手帳からボランティア』してみませんか？

## 表紙デザインコンセプト【つなげ！】

ボランティアは出会いの場。ひとりひとり、いろいろな角度からみえるその人のカラーは、唯一無二の輝きを放っています。そんな周りの人と、自分自身と、お互いを認めあい『手をつないでいこう！』 hand in hand !

## 【問合せ先】

大阪府ボランティア・市民活動センター  
(06-6762-9631)

We support

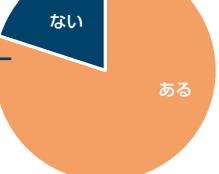


地区福祉委員会における活動拠点の有無と活用例  
(対象：府内 41 市町村社協)

- 活動拠点が無い 8 市町村
- 活動拠点がある 33 市町村

(活用例)

- 空き家をリノベーションして活動拠点とした世代間交流
- 旧学童跡地での晩御飯サロンなど

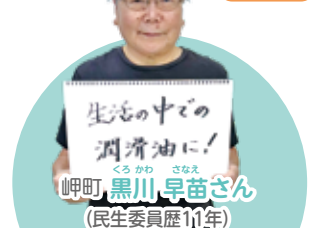


※令和 7 年 3 月 31 日時点

## 地域で活躍する

民生委員・  
児童委員さん

(NO.50)



## Q 質問数珠つなぎ

Vol.49 尾崎さんから質問

民生委員の活動を食べ物や飲み物に例えると？

## A 黒川さんの回答

お米です。意識的に食べない方もいらっしゃると思いますが、日本の食卓には欠かせないお米のように、地域にとって必要とされる存在になりたいと考えています。

このコラムは、地域で活躍する民生委員・児童委員(以下、民生委員)さんにスポットを当て、その方の思いを紹介します。

今回は、困った時の相談相手として頼られる存在でありたいと話す黒川さんにインタビュー。活動で大切にしていること、今後の抱負について聞きました。

## ● きっかけは 9 割以上が顔見知り

長年、地元の孝子小学校(現在休校中)で勤務していたこともあり、孝子地区の9割以上の方のお顔が分かります。それをきっかけに、自治会長さんから推薦があり、民生委員になりました。

孝子地区はあわせて約130世帯ほどで、比較的小さい地域ですが、地域の方との顔の見える関係性は大事だと考えています。

## ● 自宅訪問で安心を

地域には、サロンなどの集いの場が開かれていますが、その日の天候や足腰の不安などで参加ができない高齢者や、そもそも地域に出ることをためらう方もいます。そういった方のご自宅へ訪問した

際には「今日は誰とも話してなかったし、うれしい」と感謝の言葉をいただくことも多く、私もやりがいを感じています。

平日に訪問すると、通院やデイサービスの利用などで不在のことが多いので、土曜日や日曜日に訪問するなど、一人ひとりに合わせたタイミングでの訪問を心がけています。

## ● 住み慣れた自宅で長く過ごすために

岬町は大阪府内でも特に高齢化が進んでいる町ですが、地域の方から「できる限り自宅で暮らしたい」という話をよく伺います。

例えば、転倒による骨折や入院をきっかけにこれまでの生活が難しくなることがあります。そのため、「こけないように」を合言葉に、サロンや自宅訪問などの活動で、健康維持や生きがいづくりに貢献しています。

地域の方が住み慣れた我が家で安心して暮らし続けるために、私は何ができるのか、日々考えながら活動に取り組んでいます。